

## C F T ニュース&息抜き（12月）

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

### 1. 2024年11月の気になる問合せ

#### （1）千葉県〇〇市消費生活センターである。

当管内の消費者からコーヒー生豆に関し苦情があったので電話した。この消費者は通販でインフューズドコーヒー生豆を購入したところ、欠点豆の混入が多く、販売者に苦情を申し立てたところ、販売者はインフューズドコーヒーとしては正常品であると言っているとのことで、センターに苦情を寄せたものである。

- ① インフューズドコーヒーとはどのようなコーヒーで、
- ② 安全性は確保されているのか、
- ③ インフューズドコーヒー生豆には欠点豆や異物混入が多いのか、
- ④ インフューズドコーヒー豆を検査する機関又は相談できる方はいるか、
- ⑤ コーヒー公正取引協議会にこの種の苦情はあるか、
- ⑥ また、コーヒー公取協はこの種問題に対してどのように対応されているか、お聞きしたい。

#### ⇒ ①について

インフューズドコーヒーについてはコーヒー業界においても定義はないと考えます。当方でもインフューズドコーヒーについて話し合いを行ったことはあるが、関係者がそれぞれの立場で意見を述べる程度で、業界として統一された見解はない、と思います。

インフューズドコーヒーには日本で処理されるものと、コーヒー生産国でコーヒー豆の精製を行う時などに、発酵槽的な所にコーヒー豆を入れ、発酵を助けるためにバナナやマンゴーなどを入れることがあるといわれています。（コーヒー公取協が確認したわけではありません。）

国内ではワインやウィスキーなどを加えた桶にコーヒー生豆を入れ、そ

の香りをコーヒーに移す例があるが、これについては原材料を「コーヒー豆、ワイン」などと表示するよう、コーヒー公正取引協議会の会員には求めています。（消費者庁も了解。）

コーヒー公取協は、当面、国内処理と海外処理の2タイプに分けて考えることとしています。ただ、海外で処理されたものは当方では確認できないので特段の対応はできません。

②について

インフューズドコーヒーも通常の厚生労働省の食品検疫を受けて輸入されているので安全なコーヒー豆と思います。食品検疫はご指摘の残留農薬検査とカビ毒検査などです。

③について

インフューズドコーヒーだから欠点豆や異物が多いとは聞きません。

④について

インフューズドコーヒーについては定義も定まっていないので、このコーヒー生豆がインフューズドコーヒーか否かを調べる機関はないと考えます。また、これについて確たる知見のある方を紹介することもできません。

⑤について

昨年から時々あるが、欠点豆があるとかないとかの相談でなく、レギュラーコーヒーから日本酒の香りがするとか、フルーツ臭があるが表示は「コーヒー豆」のみだが何故だ、というようなことなどです。

⑥について

全日本コーヒー公正取引協議会は、会員社を対象に、景品表示法や食品表示法、更にはコーヒー公正競争規約の遵守をお願いするほか、試売検査会を行い市販品の表示が適正になされているか否かのチェック、会員からの表示に関する相談を受けることが責務で、インフューズドコーヒーについては会員社からの相談に対応する程度です。

- (2) 当方は〇〇市でふるさと納税の返礼品としてレギュラーコーヒーを扱っている。保健所よりレギュラーコーヒー（豆）の製品について一括表示

欄に「挽き方（豆）」とあるのはおかしい、と指摘を受けた。大阪府に聞いたところ、コーヒー製品の表示は公正競争規約に従って行うべきと言われ、全日本コーヒー公正取引協議会の電話番号も教えていただいたので電話した。当方はレギュラーコーヒーの包材を豆・粉共通にしており、豆だから挽き方表示欄をその都度削除するわけにはいかない。何か良い方法はないか。

⇒ 挽き方表示はコーヒー公正競争規約の求める表示で、非会員である貴社はこの規約に従った表示でなくとも問題ありません。食品表示基準や計量法などの関係法令を遵守しておれば問題ありません。

しかし、消費者の中には「挽き方」でコーヒーの味が変わるので記載していないと問題視する方もいます。大阪府も消費者視点に立ち、かつ食品表示基準の求める表示の上乗せ表示となる規約を遵守した表示が問題ないと考え、当方を紹介したのだらうと思います。

近年、レギュラーコーヒーの包材について、豆・粉共通にしたいという問い合わせが増えています。レギュラーコーヒー（豆）の場合は、「挽き方の記載なし」と一括表示欄の近くに記載できないでしょうか、又は御社のホームページやQRコードを付して返礼品の表示に対する疑問に 대응できないでしょうか。〇〇市としても、ふるさと納税の返礼品であるから一括表示は公正競争規約に従ったものを希望しているのだらうと思います。

## 2. コーヒーを巡るいろんな状況

2024年も残り僅かになりました。コーヒー業界の最大の関心事はニューヨークコーヒー相場（アラビカ種）の47年ぶりの史上最高値の更新だらうと思います。本日（12/23）の価格は327.25セント/ポンドと高値圏にあります。気候変動に伴うブラジルの早魃の影響やカネフォラ種ロブスタ産地のヴェトナムの減産が響いていると言われていますが、世界的な過剰流動性の存在も大きいのではないかと考えています。

メディアでは食品価格の上昇が度々報ぜられていますが、コーヒーやカカオなどは国際相場の高騰と円安のダブルパンチですから、製品価格が上がらないと安定供給もできないでしょう。今回の世界的なインフレは2022年2月24日のロシアによるウクライナ侵略が起点となっています。平和が農産物の安定供給維持や合理的価格維持の最大の肥やしかもしれません。

世界は2025年1月の米国大統領の交代に極めて大きな関心を有してい

ると思います。米国大統領はいろいろなタイプが現れており、当初危惧されたものの素晴らしい成果を残した方もいます。もちろん期待に添わなかった方もいます。最後は歴史の判断でしょう。

近年、V-dem 研究所の各国の民主主義度が紹介されることがあります。北朝鮮や中国は閉鎖的権威主義国、シンガポールなどは選挙権威主義国、米国は何と選挙民主主義国と分類されブラジルやハンガリーなどと同じとされています。日本はノルウェーやデンマークなどと共に自由民主主義国に分類されていますが、これから落ちそうともいわれています。2012年より日本は「表現の自由」、「マスメディアのチェック」、「執政府の議会チェック」、「執政府の司法チェック」が問題とされているようです。米国は「自由で公正な選挙」や「議会の政府チェックの低下」が問題とされていますが、知見の乏しいGFT子にもなんとなく納得がいきます。

いずれにしても、戦争のない世界が一番であり、ロシアや中東の関係国が矛を収めて欲しい、と考えています。

2025年がコーヒー関係者に良い年であることを祈念いたします。

(12月24日記)